

貝塚市庁舎

建築物概要

- 所在地：貝塚市畠中1丁目55-1、194-1
- 建築主：貝塚市
- 設計者：株式会社 大建設
- 用途：庁舎
- 敷地面積：16,084 m²
- 建築面積：2,684 m²
- 延べ面積：12,525 m²
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上6階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.1
- 重点評価：CO₂削減3.8/みどり・ヒートアイランド3.5/
建物の断熱性能4.3/エネルギー削減3.6/
自然エネルギー直接利用5.0



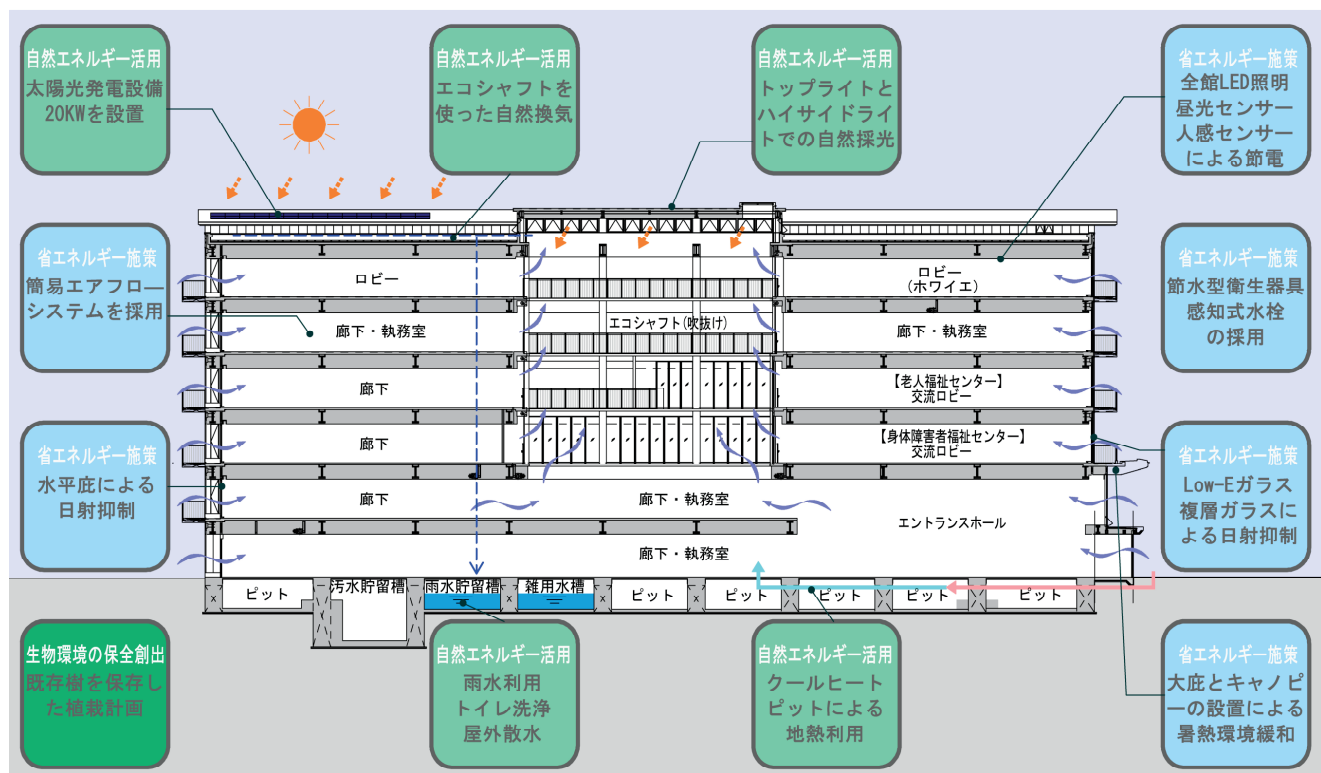
【立地、周辺環境】

計画地周辺は、海辺に近い田園平野地のため池が多く田畑へ水を供給する水路が張り巡らされた地域になる。宅地化が進んでいる地域ではあるが、従前の里地里山の風情が残っており平地で伸びやかな景観が特徴である。公共施設を集結し、市民の利便性を高める市の基本方針に対して、広がりある敷地の中心に大きく市民広場を設けることで市民が交流できる配置計画とした。

【総合的なコンセプト】

- エリア活性化の中心的役割を担う整備を行い、他の公共施設と構内道路を通じて連携できる配置計画とし地域活動の連携を適える計画とする。
- 平地で伸びやかな景観に合わせ、建物高さを抑えた庁舎の計画とすると共に、水平ラインを強調した大庇やキャノピーを使った外観構成とする。
- 周辺の宅地化による緑地の減少に対して、従前の里地里山の生態系の生物の生息場所や飛来場所としての緑地を確保する計画とする。
- 周辺建物との調和を図る基準階階高を抑えた計画とし、天井レスを採用して執務空間に広がりを持たせると共に設備の維持管理の省力化を図る。
- 自然エネルギーの活用を主軸に、省エネルギー施策やライフサイクルコスト削減等、環境に配慮した庁舎を整備する。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

エリア活性化の拠点となる市民広場の整備 ■庁舎エントランスと一体的に利用する市民広場



市民広場に開いた庁舎ファサード

- 公共施設エリアの中心となる市民広場は庁舎エントランスに大きく面して設け内部外部合わせた施設連携の核として整備
- 一体利用を繋ぐ大庇やキャノピーにより日陰スペースをつくり出し、市民にとって居心地のよい緑豊かな広場を計画。
- 防災広場としての利用も見据えた広場は、地域イベントにも利用できる整備を行い市民活動の多角的なサポートを行う。



日陰をつくる大庇とキャノピー

水平ラインを強調した外観

■貝塚らしさを現わすカイツカイブキと地域性を象徴するボクハントツバキ

- 地域に親しまれる景観を形成する樹木として植樹された既存樹木のカイツカイブキを移植保存。
- 貝塚の歴史を示すシンボルツリーとして植樹されたボクハントツバキを植栽計画上の主要な保存樹として継承



ボクハントツバキ

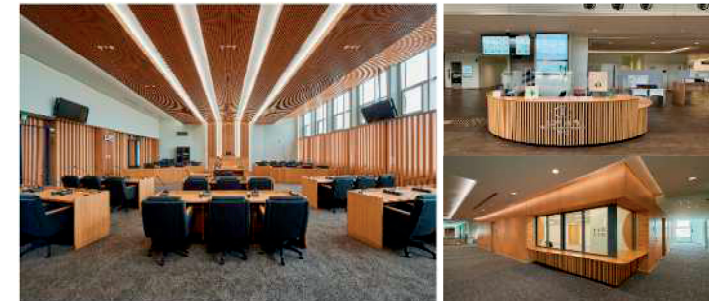
カイツカイブキ

駅からの歩行者アプローチには緑のプロムナードを計画

省エネルギー施設を実現する取り組み

■自然エネルギーの活用

- 建物中央にエコシャフト(吹抜)を設け、トップライト、ハイサイドライトにより庁舎中央部分に自然光を取り入れ電力の省力化を図る。
- エコシャフト(吹抜)頂部に風向センサーにより自動で開閉する窓を設置し、中間期に各フロアの窓の開閉と合わせた自然換気を促進。
- 内装への貝塚市産の竹材活用によりCO₂排出量を削減すると共に地元材と自然素材のあたたかみによる親しみ易い庁舎を実現



議場、議会事務局、総合案内等に地域産竹材を採用

■ランニングコストを削減する省エネルギー施策

- 執務室はLow-eガラスと水平庇による日射抑制に加え、簡易エアフローシステムを採用し、窓際環境改善と空調の効率的運転を促進。



簡易エアフローシステム断面

天井レスの執務室

自然採光、自然換気を取り入れるエコシャフト